

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名	中央区
学 校 名	開平小学校
学校長名	岩本 由紀

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・開平小学校では、第6学年49名

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語、算数ともに大阪府平均・全国平均を上回る結果となっている。平均正答率で、全国平均と比べ国語で8ポイント、算数で10ポイント上回っている。平均無回答率は、国語、算数とも全国平均の3分の1以下といずれも低く、最後までしっかり考え、回答しようとしていることが分かる。

児童質問紙については、自己有用感に関する項目はいずれも肯定的回答率が高い。各教科に関する項目についても肯定的回答が多く、自ら学び方を考え、友達との意見交流を通してより考えを深め意欲的に学習に取り組む児童の姿が顕著にあらわれた結果となっている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

全ての領域において大阪市平均、全国平均を大きく上回っている。情報の扱いに関する事項については正答率が95%以上と特に高く、情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができています。また、話し言葉と書き言葉の違いや読書が自分の考えを広げることに関与することへの気づきについても高い結果が出ている。人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする記述式の問題については、正答率が全国平均から15ポイント以上上回り、自分の考えについて理由を入れて述べることに慣れ、積極的に記述しようとする意欲とともに、力の定着が表れている。全体的にはよくできているが、文章をおおまかに読んでしまう傾向があるので、複数の文章について分析する力をさらに高めていく必要がある。

〔算数〕

全ての領域において大阪市平均、全国平均を大きく上回っている。数量の関係を□を用いた式に表す設問や直方体の見取図について理解してかく設問については、正答率が96%と94%と高い結果が出ている。記述式の設問においては4問中3問は無回答率が0%で、全ての児童が求め方と答えや式を言葉を用いて記述したり、理由を言葉と数を用いて記述したりすることができており、正答率も全国平均から5～20ポイント上回っている。これは、4年間本校が取り組んできている研究「児童が主体的に解決する算数科の授業」の成果であると考えられる。唯一、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述する設問が平均を下回っており、記述が不十分であることから、問題文を丁寧に読み適切に解答する力を高めていく必要がある。

質問調査より

「自分には、よいところがあると思いますか」の最も肯定的な回答の割合が大阪市や全国の約1.5倍あり、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」も肯定的な回答の割合が高いなど、自己有用感の高さが表れている。また、「人が困っているときは、進んで助けていますか」「学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことに取り組んでいますか」の項目においても、肯定的な割合が高く、何事にも自らの力を発揮して取り組もうとする姿勢につながっていることが分かる。

国語、算数、理科、英語が好きかを問う項目では、最も肯定的な回答が大阪市や全国の割合から10～15ポイント高く、それぞれの教科における内容の理解や活用に関する項目についても最も肯定的な回答の割合が高い。また、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」「自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」の肯定的な回答の割合が高く、学習に対して頑張っているという気持ちをもつことができており、これまで学力向上の研究で取り組んできている自ら学び合い深め合う授業の工夫を重ねてきた結果であると考えられる。

一方、対人関係にかかわる項目「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「友達関係に満足していますか」の肯定的回答の割合が他の項目と比べて低く、周りの人とのつながりを大切に、互いによりよい人間関係を構築していく必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

子ども一人一人が「わかる喜びと学ぶ楽しさ」を感じる学習指導の充実を目指して、主体的・対話的で深い学びを重視した授業づくりに継続的に取り組み、友だちと学び合いながら、主体的に学びに向かう子どもの育成に努めていく。そのために、児童が興味・関心をもてるような課題の設定、考えを引き出す発問や板書の工夫、学んだことを相互に関わらせて対話を広げたり、考えを練り上げ学びを深めたりできるような授業の構築を進める。

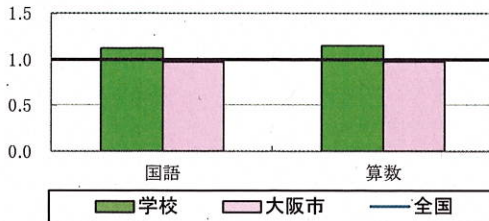
I C Tの効果的な活用を図り、プレゼンテーションを作り資料として発表するだけでなく、正しい情報や必要な情報を適切に見つけ出したり、情報を相互に関連させて考えたりする機会を教科横断的に積極的に取り入れて情報活用能力を高めていく。

【 全体の概要 】

平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	76	73
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4

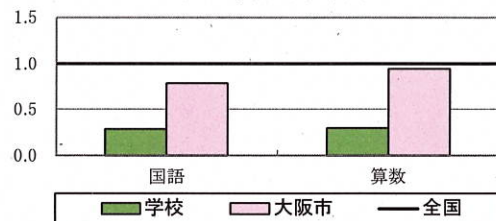
平均正答率(対全国比)



平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	1.2	1.0
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4

平均無解答率(対全国比)



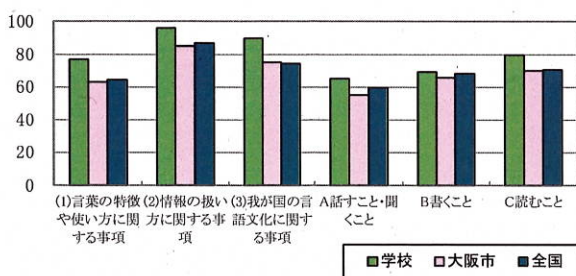
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	4	77.0	63.1	64.4
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	95.9	85.0	86.9
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	89.8	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	65.3	55.3	59.8
B 書くこと	2	69.4	65.9	68.4
C 読むこと	3	79.6	70.1	70.7

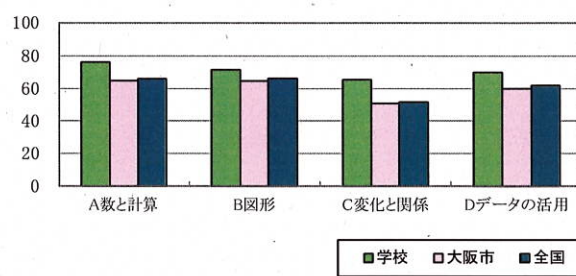
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	76.3	64.8	66.0
B 図形	4	71.5	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	65.3	50.8	51.7
D データの活用	4	70.0	60.0	61.8

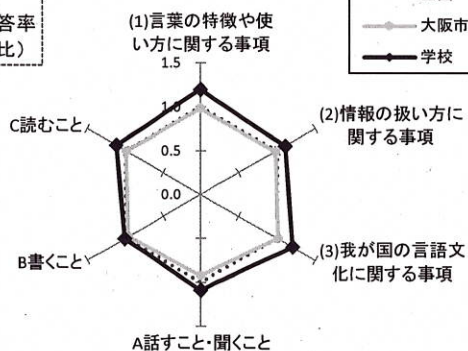
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



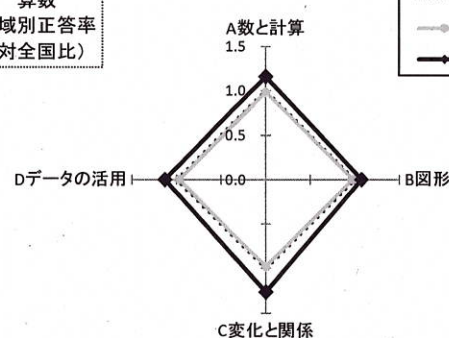
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)



算数
領域別正答率
(対全国比)



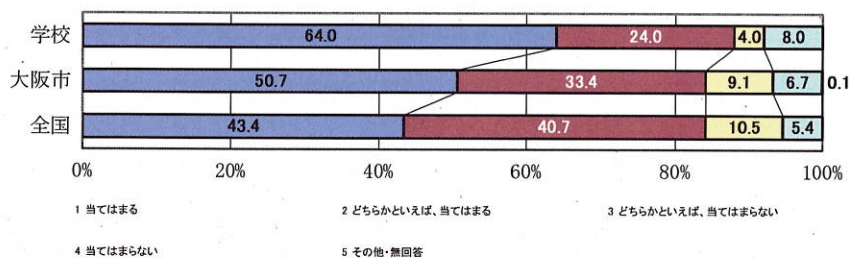
児童質問より

質問番号

質問事項

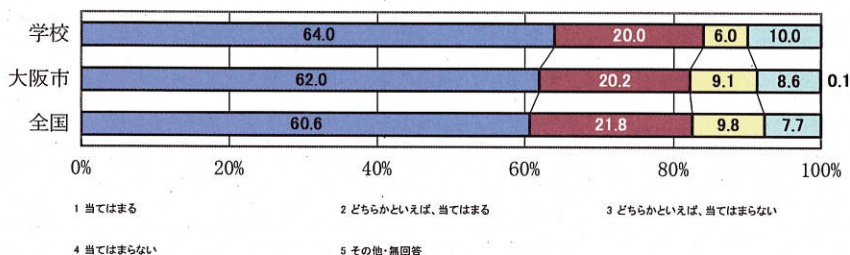
9

自分には、よいところがあると思いますか



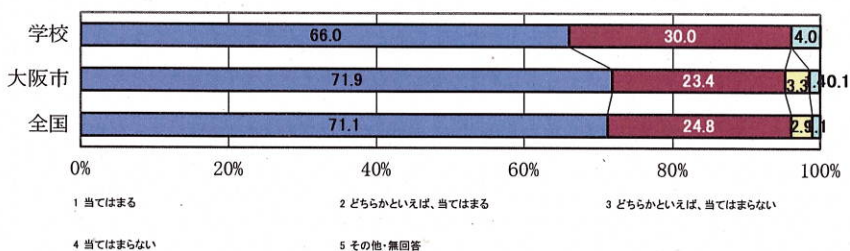
11

将来の夢や目標を持っていますか



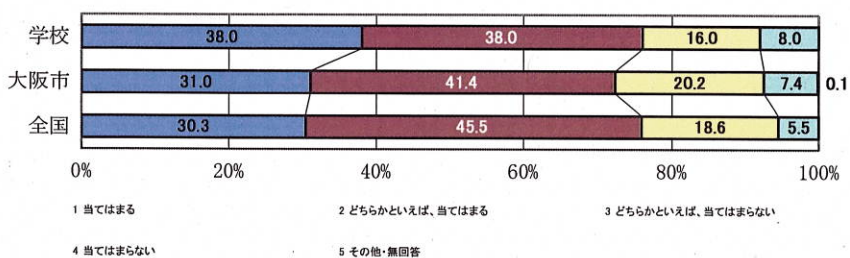
15

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



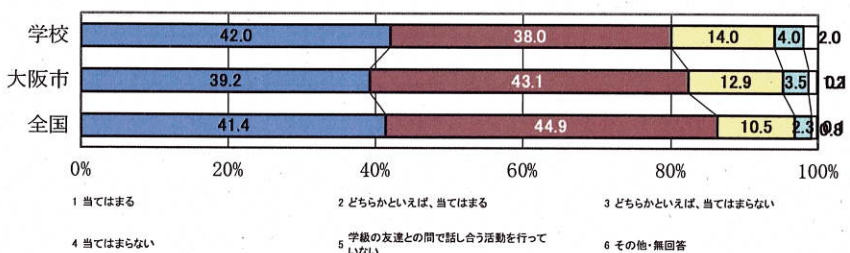
17

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



33

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



学校質問より

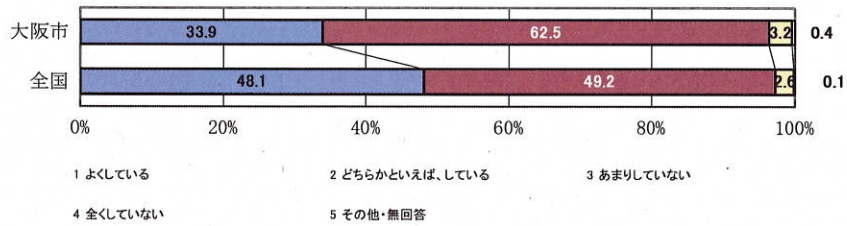
質問番号

質問事項

14

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか

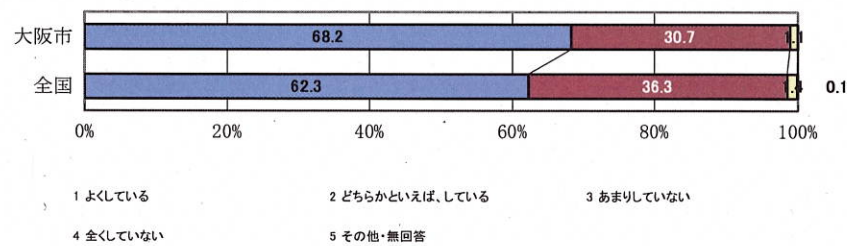
学校 「よくしている」を選択



16

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

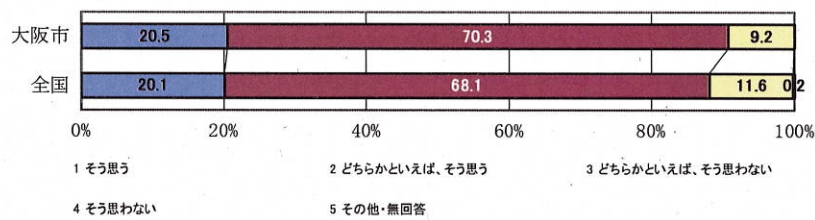
学校 「よくしている」を選択



25

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

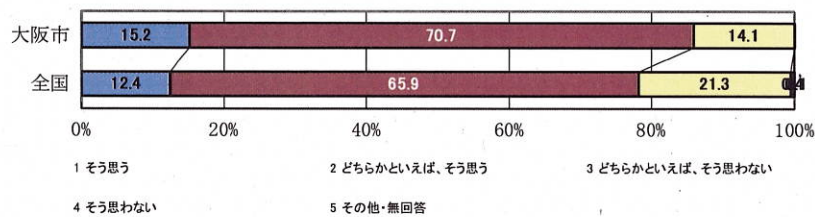
学校 「そう思う」を選択



26

調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

学校 「そう思う」を選択



31

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

学校 「よく行った」を選択

